

「デジタル時代のオクルージョン ～シークエンシャルオクルージョンの考えをデジタルで活かす～」

前川泰一

歯科業界にデジタル化の波が押し寄せ、デジタルデンティストリーという言葉が聞かれたして数年が過ぎる。私自身 3 年以上前から口腔内スキャナ等の仕事に携わり、アナログ技工の中にデジタルを取り入れて仕事をしてきた。そして、今尚時代はデジタルに向いて邁進している。技工士学校卒業後は石膏やワックスを扱ったことがないという歯科技工士も出てくるのではないかと思う。たしかにある程度の歯の形態を知っていれば、補綴物は作れるであろう。しかし、その補綴物は本当に患者の口腔内で機能するのであるか。歯の形はしていても歯の形をしたキャップに過ぎないのではないか。私のラボでも、ワックスアップのダブルスキャンではなく、デジタルデザインで仕事を進めていくようにしている。その際、しっかりとした咬合理論を頭に入れて作業をする事を指導している。私は歯科業界のデジタル化を牽引しているのは私たち歯科技工士であると考えている。だからこそ、その知識や経験がこのデジタル時代に活かされるよう大切な基礎をしっかり身につけるべきだと考えている。今回は咬合というテーマで、基礎の部分からデジタル技工まで、幅広くお話させて頂こうと考えています。